

朝日 俳壇

第40回 朝日歌壇賞

2023年の入選歌から選者4人が1首ずつ選びました。賞状と記念品が受賞者に贈られます。

佐佐木幸綱 選
もういない爺さんの笑う声がする祖母の居室に陣どる鶏鳴
(スイス) 岸本真理子



オウムは長寿で半世紀生きる種もあるらしい。そこに「在った」ことが誰かや何かに記憶されて、束の間思い出して笑ったり泣いたりされることで時が紡がれるのかと思う。
《評》「陣どる鶏鳴」の圧倒的な存在感。

高野公彦 選
首脳には悲痛な面でも歩み出る原爆資料館のExit
(出雲市) 塩田 直也



広島市のG7サミットで資料館の見学を終えた各国の首脳は、一様に深刻な表情でした。それが核兵器無き世界への出口につながってほしい、という思いで詠んだ歌になります。
《評》各国首脳が広島市の原爆資料館を見学し、強い衝撃を受けたことが伝わる。

永田和宏 選
どっちみちどちらかひとりのがこのるけどどちらにしてもひとりとはひとり
(豊中市) 夏秋 淳子



十五年前に夫が難病に侵されて亡くなり、そして独りになった日、そして独りになった後の日々、なかなか受け容れることができませんでした。そんな心情を詠みました。
《評》どちらか一人が遺るのは、人生の必然。あなたが後でなくてよかったわ、と。

馬場あき子 選
いつか会う約束交わしこっそりとプールの中で指切りをする
(富士宮市) 鍋田 和利



「いつか」という言葉は曖昧ですが「必ず」という意味を込めたつもりです。プールでのウォーキング中にふと童心に帰ってみたくになりました。今バタフライの練習中です。
《評》まるでドラマの中のシーンのようだ。ロマンチックで印象的。

馬場あき子 選

周庭氏の亡命に知る生れしより我がもつ自由の意味と重きを (観音寺市) 篠原 俊則
☆子の髪型「ウルフカット」というらしい顔はウサギに似ているくせに (朝霞市) 岩部 博道
全首で厨に立ちて料理する闊深き世界に立ち向かふ人 (厚木市) 藤本 信雄
ロシアにはダーチャがありて日本には耕作放棄地増えてキジ鳴く (安中市) 岡本千恵子
荒海を突いて寄せ来る鯿を漁師ら待ちて荒声高し (仙合市) 成田 一紘
北極の一角獣から水銀が検出される病んでる地球 (石川県) 瀧上 裕幸
働きし手を見せ合ひて日向は「妻と二人の農」 (匝瑳市) 椎名 昭雄
五十年 (匝瑳市) 椎名 昭雄
☆嗚呼3回目の年賀葉書も12号病棟のわが子へ出すのか (三浦市) 秦 孝浩
時雨降る中を働く影黒く地吹雪防ぐ柵立ててゆく (山形市) 小林 武子
☆横雲が教室中に広がりて定家と眠る五限の古典 (西条市) 村上 敏之

【評】第一首は香港の民主活動家・周庭さんのカナダ亡命を報じたニュースで、氏が再び香港には帰らないと語ったことに触発され、「自由」の意味を改めて噛みしめている。第二首はウルフカットの髪形に、改めて思う流行の力を。

佐佐木幸綱 選

野の草をあの子この子と呼びながらスケッチ描きし甲斐信枝さん (長崎県) 稲垣 妙子
岸上大作の生家址なる巖に卵を温める禽のをり (兵庫県) 札場 秀彦
テレビ観て「可哀そうに」と言いつつもワイン飲んでるまるで悪魔だ (岐阜市) 木野村暢彦
照らされる側に回って灯台はライトアップに青く響える (出雲市) 塩田 直也
武家屋敷跡の鷹掛け始まりて冬色となる金沢城下 (石川県) 瀧上 裕幸
☆子の髪型「ウルフカット」というらしい顔はウサギに似ているくせに (朝霞市) 岩部 博道
☆母は昔京都の住人「変わったな」と言いつつ生き生き道案内する (富山市) 松田 わこ
町内に空き家ポツポツ出はじめ「猛犬注意」の家も空き家に (仙合市) 藤原 節子
柵外にシールなど貼りにぎやかな五日日記も終わりに近づく (兵庫県) 福本 都
鷗飛ぶ監獄の空晴れ渡りサッチモの歌を口遊むかな (アメリカ) 郷 単人

【評】第一首、十一月三十日に九十三歳で世界された絵本作家・甲斐信枝さん追悼の作。人柄がしのばれるような一首。第二首、岸上大作は六〇年安保のころ活躍・自死した学生歌人。彼の死後、私も兵庫県のお宅を訪れたことがあった。

高野公彦 選

知覧茶を飲む開戦日 知覧とふ特攻隊の飛び立ちし場所 (南相馬市) 水野 文緒
☆ガゼはガーゼの語源と知りてかなしみのいや増す街よ破壊のつづく (香芝市) 関口 光子
☆横雲が教室中に広がりて定家と眠る五限の古典 (西条市) 村上 敏之
キックバックは蹴り返すこと議員らの財布がゴールとは知らざりき (東京都) 上田 国博
巷ではとても通らぬ弁明が普通に闊歩している政界 (生駒市) 辻岡 英雄
クリスマス・キャロルを合唱せしチャペル多人種混合のミサのお祈り(アメリカ) 郷 単人
「ゲルニカ」を描きしヒカソの怒りもて我も詠はむ世界の無道 (水戸市) 榎山佳与子
玄関に夫の表札と傘二本わが家守りも長くなりたり (青森市) 皆川 幸子
☆母は昔京都の住人「変わったな」と言いつつ生き生き道案内する (富山市) 松田 わこ
日本語は運転手さんと私だけ河口湖発新修行きパス (富士吉田市) 武藤 栄子

【評】一首目、12月8日に鹿兒島産・知覧茶を飲みつつ、知覧から飛び立った若き兵たちを悼む。二首目、ガーゼの発祥地はガゼという。三首目、定家の名作「春の夜の夢の浮橋とだえては峯にわかるる横雲の空」を教えても、生徒らは居眠り。

永田和宏 選

ウケケチノホソミオナガノオキナハギ最長魚名は最短詩型 (八王子市) 額田 浩文
☆ガゼはガーゼの語源と知りてかなしみのいや増す街よ破壊のつづく (香芝市) 関口 光子
ほんたうは羨ましいのよひとりよりふたりがいいに決まってるわ (豊中市) 夏秋 淳子
赤い蛇を鎖骨のくぼみに飼っている明日の午後の摘出オベマで (奈良市) 山添 聖子
「春夏秋冬」の屋号にふらり熱燗と酔牡蠣でちよと秋の道草 (大阪市) 岡 洵子
コップより清酒あふれて受け皿へ表面張力見られぬ酒場 (枚方市) 秋岡 実
☆嗚呼3回目の年賀葉書も12号病棟のわが子へ出すのか (三浦市) 秦 孝浩
また来てるさくらカットの耳の猫ごうやうまく鳴けないうらい (岐阜市) 原 純子
吊橋の下に流るる鬼怒川の水のとおりと青みで冬来 (多摩市) 豊間根則道
むさし野の杵の森のふみし葉のふり積む音の中に逝きたり (運田市) 斎藤 哲哉

【評】額田さん、最長の名を持つカワハギ科の魚類。なるほど575の俳句か。おまけに季語まで入っているぞ。関口さん、ガーゼの語源を持つ町で、常にガーゼなどの医療用品が足りない状況に。夏秋さん、残された誰もかそう思いつつ生きる。

☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メディアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿は無地のほうが1枚に1作品、未発表の自作品のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。